

VPDCA×5W2H——

抽象から具体へ、理念から実行へ。
シンプルに整理した枠組みを共有します。

VPDCA × 5W2H モデル

PDCA には「V」が欠けていた

抽象的 ↑

V (Vision) 理念・方向性

P (Plan) 計画・設計

D (Do) 実行

C (Check) 検証

A (Act) 改善

具体的 ↓

D Xを例にした場合

V (Vision) = 経営理念・DXの方向性

P (Plan) = データ基盤や可視化計画

D (Do) = ダッシュボード構築・運用

C (Check) = モニタリング・効果測定

A (Act) = 改善・新たな分析テーマへ

VPDCA × 5W2H の整理

V (Vision)

- Why：なぜやるのか（理念・方向性）
- What：何をを目指すのか（到達点・価値）

P (Plan)

- How：どうやってやるのか（理論・原理・論理・方法論）
- Who：誰が関わるのか（主体・役割）
- Where：どこでやるのか（対象範囲・環境）
- When：いつやるのか（スケジュール・タイミング）
- How much：どのくらい（コスト・リソース・スコープ）

D (Do)

- 実際に行うこと（モデル化・実践・行動）

C (Check)

- 成果測定（KPI、ログ、効果測定）

A (Act)

- 改善・再構想（VisionやPlanの見直し、新たなテーマへ）

VPDCA × 5W2H マトリックス

5W2H\VPDCA	V (Vision) 理念・方向性	P (Plan) 計画・設計	D (Do) 実行	C (Check) 検証	A (Act) 改善
Why	なぜやるのか (経営理念・DX方針)	背景にある 課題・目的の明確化	実行理由の確認	成果が「Why」に 合致したか	Vision再定義
What	何を実現するのか (ゴール像)	具体的成果物・KPI設計	モデル・成果物の構築	実績とKPIの照合	新しいテーマ設定
How	(抽象的方向性のみ)	理論・原理・方法論 の選択	実際の方法を適用	実行方法の評価	改善手法の選択
Who	主体は誰か (経営層・全社)	担当者・役割分担 の決定	担当者による実行	担当者の実績評価	担当者配置の見直し
Where	適用領域 (全社／部門)	実施場所・システム環境	現場・環境で実行	適用範囲の効果測定	新しい適用範囲へ拡張
When	ビジョンの期間 (中長期)	スケジュール立案	計画に沿った実行	実施タイミングの評価	サイクル再設定
How much	理念としての 「どの程度変えるか」	コスト・リソース配分	実際の投入量	投入量と効果の対比	次サイクルでの調整

まとめ

VPDCAを定義し、詳細化していく

3つの階層のヌケ漏れを埋めていく

実践するなかで常にアップデートしていく